コラム⑫

惜別の歌

出陣予科生の壮行会 (1943 年)

太平洋戦争末期、否応なしに戦地に赴かなければならなかった友。その友との別れを心から惜しむ歌。この歌は、今から65年前の戦争の最中に生まれた。

作曲者の藤江英輔は、学徒出陣が始まった翌1944（昭和19）年に本学予科に入学し、戦後の50年に法学部を卒業した。戦時中、彼は出陣こそしなかったが、東京板橋の陸軍造兵廠に勤労動員された。45年初春、島崎藤村の処女詩集『若菜集』にある長詩「高楼」からとった詞（一部改詞）に曲をつけ、戦場に向かう仲間、学徒兵へのせめてものはなむけとした。

この歌は、戦後、送別の歌として本学卒業式をはじめ学生・学員の集まりの中で長く歌い継がれていくこととなる。「惜別の歌」は、大学と戦争という歴史の中で生まれたことを記憶にとどめておきたいと思う。

出典：『タイムトラベル中大125:1885→2010』第2版。一部修正を施している場合があります。